

巻末情報ページ

このページは直接学習には関係ありません。
情報としてお役立てください。

学習ガイダンスに行ってきました 56

● みんなどうしてる？

先輩から学ぶ レポート作成のコツ 58

教員からのアドバイス 61 ～レポートの書き方について～

Series シリーズ コンサート 10 64

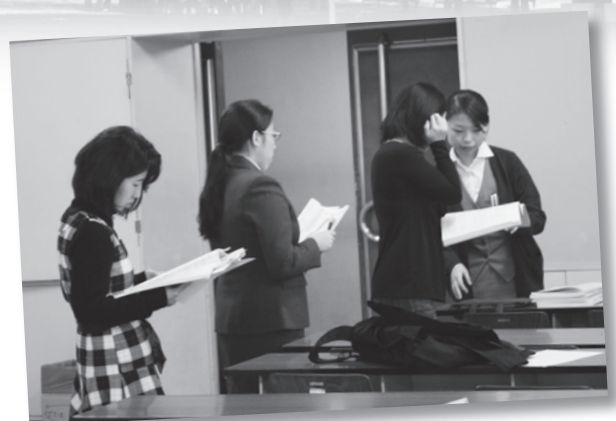


学習ガイダンスに行ってきました

平成21年11月15日(日)新入生向け「学習ガイダンス」が聖徳大学松戸キャンパスにて行われました。秋晴れの中、100名程の皆さんが参加され、教職員からのアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

今回の学習ガイダンスメニュー

- 先生方によるレポート作成のアドバイス講座
岡田 耕一先生(学部・短大向け)
那須 雅熙先生(司書科目履修者向け)
- 職員による学習に関する説明会
- 個別相談会



ピックアップ レポート作成のアドバイス講座

新入生の方はもちろん、在学生の皆さんにとってもレポート作成は悩みの種。
今回のガイダンスでは、そんな悩みを解決する方法がたくさん紹介されていました。

“レポートを作成できない人はいません、作成の仕方を知らないだけです”

岡田 耕一先生（聖徳大学短期大学部 通信教育部保育科長）

「履修と学習の手引」(学部)と「学習のしおり」
(短大)の“レポートについて”は基本！とのこ
とで、例を挙げながら分かりやすく解説してい
ただき、また、文章を書く上でのポイントを学
ぶという実践講座もありました。

～レポートについて例（一部抜粋）～

- ・課題の要求していることに対して内容が合致していないといけません。
- ・広範囲にわたり漠然とした課題については適当に限定します。
- ・自分の述べたいことと思うことをはっきりと掘むことです。
- ・論旨は秩序良く配列してください。
- ・文章は丁寧に、わかりやすく書いてください。 など

皆さん、「手引」や「しおり」を読みましたか！？入学した時には読んだけどという方も、迷いが生じた時はまず確認しましょう。

※『聖徳通信11月号』60ページにも先生からのアドバイスが掲載されています。



“日常の読書を大切にしましょう”常に読むことで問題意識を育てられます

那須 雅熙先生（聖徳大学 日本文化学科 教授）



司書課程の学生さんへのアドバイスでしたが、
司書科目や司書課程を履修していない場合でも
参考になる講座でした。インターネットを使用
し、文献調査のやり方を実際に見せていただき、
また、レポートを作成する上でよくある間違い
や注意点なども数多く教えていただきました。

〈紹介のあった検索サイト〉

GeNii [ジーニイ]

学術コンテンツ・ポータル 国立情報学研究所
<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>

キーワードを入れると書籍がずらり。論文情報ナビゲ
ータCiNii[サイニイ]にもリンクされているので、同時に論
文検索が可能。一度試してみてください？



みんなどうしてる？

先輩から学ぶ レポート作成のコツ

- 質問1 レポートを書くにあたり、なかなか書けない等困っている学生に対し、アドバイスやレポートを書くポイントなどありましたら教えてください。
- 質問2 通信科目（レポート）にどのように取り組んだか、例えば場所や習慣（毎日学習している場合は1日のタイムスケジュール、集中して学習している場合は1週間の流れの一例など）についてお聞かせください。
- 質問3 通信科目（レポート）の学習に行き詰ったとき、どのようにして対処していますか。



年齢：30代
学科：社会福祉学科

●質問1

入学するまでレポートを書く機会がほとんどなかったので、まずレポートの書き方について知るところから始めました。初めは図書館でいくつか借りてみましたが、先生から「伝わる・揺さぶる！文章を書く」という本を薦められ、手に取りました。レポートだけでなく、文章を書くこととはどういうことかが分かりやすく書かれていて、とても気に入っています。実際書いてみても思うように合格できない時には質問票を使ったり、スクーリングのときに友人からアドバイスをもらったり、色々な人の意見を参考にすることで、見えてくることがあると思います。一人で悩まず、思い切ってSOSを出してみることも大切なのではないのでしょうか。

●質問2

仕事や家庭のこともやりながらの学習ですので、主な学習場所は自宅となりました。聖徳大学の図書館で通学生に混じって勉強したこともあります。学習のペースとして「1日最低1時間は勉強する」という目標を一つだけ作り、例えば残業で遅くなった日は無理せず翌日の朝少し早く起きて勉強するとか、深夜ふと始めるとか、自分の出来る時間に出来るだけ勉強しようと思っていました。どちらかという朝の方が集中して取り組むことができたような気がしています。

取り組み方として、スクーリングや実習に関係する科目から先に取りかかるように気をつけたことと、郵送料を節約するために、科目試験やスクーリングで登校するときにまとめて提出していました。

●質問3

行き詰まったことはしょっちゅうありました。そんなときは、一旦その科目から離れて他の科目に取りかかってみました。違った科目でも何かしらの共通点があったりするので、そこからヒントを得られることもあり、突破口となりました。また、友達との情報交換から「私だけがスランプに陥っているのではない。みんなも同じ経験をしているんだ」ということを知ってやる気を取り戻したこともあります。

また、合格できない科目にいつまでもこだわるよりも、科目変更できるものは科目変更の手続きをとってみるというのも、一つの手段だと思います。目先を変えてみるとそこから見えてくる新しい発見によって前に進む活力が生まれてくることと思います。

氏名：K.S
年齢：20代
学科：社会福祉学科
入学形態：正科生（1年次入学）

●質問1

何通もレポートを書いて提出していくうちに、書き方のコツや自分なりの書き方が見つかってくると思うので、まずは、簡単そうな科目や興味のある科目から、どんどん書いてみると良いと思います。

私のレポートの書き方は、

- ①課題で何が問われているのかを把握する。
- ②教科書や、課題に関連する参考書を読んで、基本を押さえる（ここで内容を理解していないと、レポートを書く時に、自分で何を書いているのか分からなくなってしまう）。レポートで使える部分やページは、書き出しておく。
- ③課題に沿った自分なりのテーマや、具体的な焦点を決める。
- ④序論・本論・結論で書く内容を簡単にメモして、全体の流れを考える。
- ⑤④のメモに肉付けしていく感じで、大体の文字数を合わせながら、下書きをする。
- ⑥内容や文字数を調整し、清書する。

簡潔で、分かりやすい文章を心がける。結論では、課題に対して、明確な答えを示す。という感じでした。

●質問2

まず、いつの科目終了試験を受けるために、いつの締切日までに、どのレポートを提出するかを決めました。そして、そのためには、どのくらいのペースでレポートを書き上げればいいのかを考えていきました。

基本的に、レポートは、ほとんど家で書きましたが、参考書を探しに図書館に行く時には、教科書などを持って行って、そのまま図書館で勉強することもありました。

私は、一日に何時間とか絶対にここまでというようにきっちりきめてしまうと、出来ない時に焦ってしまうので、「今週中にここまではやる」というくらいに、大まかな計画を立てるようにしました。

どうしてもやる気が出ない時には、無理せず思い切って休んで、その分頑張れる時には頑張って勉強をしたことが、4年間諦めずに勉強を続けられたコツだと思います。

●質問3

初めのころは、専門的な知識もなく、教科書の内容が全く理解できないこともありましたが、しかし、関連している科目がたくさんあるので、他の科目の勉強を続けているうちに、色々なことがだんだん分かってきました。他の科目の教科書が、参考書として使えたこともあります。

下書きや清書は、一気に終わらせてしまった方が混乱しなくていいですが、その前の段階では、同じ科目の他の課題や、他の科目も、同時進行で勉強すると、息抜きのようにもなって良いと思います。他の科目を同時進行で勉強する時には、なるべく関連のある科目を選ぶようにしました。

具体的にどのようにレポートを書けばいいか迷った時には、友人にどんな風にしたかアドバイスをもらったり、どうしても進まない時には、一度手を離して、数時間後や次の日などに考え直してみると、良い考えが浮かんでくることがありました。

他にこんな回答も…

氏名：S.K

年齢：30代

学科：日本文化学科

入学形態：正科生(2006)

●質問2

働きながらの学習のため、参考文献をいくつか図書館で借り、通勤時間に読み込んでおきます。休日に一気にレポート作成します。

仕事で忙しい時は、通勤時間に参考文献を読み、考えがまとまったら携帯電話のメール作成機能で、そのまま通勤時間内にレポート作成する場合があります。

自分は“手書き用レポート用紙”を使用しているため、とにかくレポートの内容だけメール機能で作り貯めしておいて、休日にひたすら記入作業をすることもあります。

氏名：S.M

年齢：20代

学科：心理学科

入学形態：正科生(3年次入学)

●質問1

私自身、レポートを1課題仕上げるのは、とても大変でした。レポートを確実に書くには、あいまいな理解ではなかなか書く事ができず、自分の考えとして書くことには相当な努力をしました。その中で、私自身が乗り越えてきた方法として、なかなか書けない時はどうしても後回しにしてしまうのですが、分からなくても、十分に内容を理解していない状態でも、まずは思うことをざっと書いていくという土台を作りました。その土台から順番に不明な部分やあいまいな部分に取り組んでいきました。教科書や関連する参考書を何度読んでも理解できない時は、とても簡単な内容の本を読んで、そこから少しずつ理解を深めていき、レポートを仕上げていきました。まずは、なかなか書けなくても何でもいいので書くことがポイントだと思います。

年齢：30代

学科：心理学科

入学形態：正科生(1年次入学)

●質問2

暇があれば読書をするのを習慣にしています。基本的には、休みの日しか勉強はしません(仕事の日には、疲れて頭がまわらなく、いい文章は書けないと思うので)。

●質問3

できない時に無理にやろうとするとかえって気持ちが焦って、イライラするので、行き詰まった時は、一度離れます。

仕事や他の事が一段落して、そろそろ勉強しようと自然に思ってくるのを待ちます。なんとしてもやらねばと義務感ばかりでやっていると、疲れるだけだし、精神的にも良くないと思うので、私は、そのようにしています。



教員からのアドバイス ～レポートの書き方について～

通信教育レポート作成のポイント —— 河野 千佳

担当科目：(学部) 病院臨床心理学

スクーリングがない科目では、教員は学生さんと顔を合わせる機会が全くありません。レポートのみのつながりです。となりますと、教員にとってレポートは学生さんご本人そのものですから、一生懸命読んで評価します。

そこで、誤字・脱字や変換ミスが目立つとなるとどうでしょう。レポートが皆さんの顔としたら、目は縦に、口は逆さまに、鼻は顔の外に置いてある、まるで福笑いの顔です。そんなレポートは、評価者に「真剣に取り組んでいない」「いい加減だな」という印象を与えてしまいます。これは提出前に必ず見直しをすることで防ぐことができますね。

原稿用紙の使い方にも気を付けましょう。改行後は1文字空ける、句読点や「」) ちゃゅよは行の最初に書かず、前の行の終わりに入れます(PC等でしたら、禁則処理設定をします)。小学校で習ったはずですが、すっかり忘れていた方が結構いらっしゃいます。

清書する前には必ず頭の中をクリアにして読みなおしてみましょう。1文が長すぎていませんか？80－100字程度でまず一度文章を区切ってみましょう。そうすると主語と述語の関係が明確になり、わかりやすい文章になります。なにがどうなっているのか、主語を明確にすると文章がスムーズに流れます。

内容としては、指定教科書からの抜き書きで終わらせないことが前提となります。もちろん必要に応じて引用することはあるでしょう。しかし抜き書き、切り貼りのレポートは評価できません。レポート＝皆さんの顔がフランケンシュタインのようになってしまいます。いくらカッコイイ俳優さん達の顔のパーツを集めてきても、ただ貼り合わせただけでは、ものすごくかっこ悪い顔になります(雑誌等から切り抜いてやってみてください。なんで？と言いたくなるくらい悲惨です)。

それから引用する時は必ず出典を明らかにしなくてははいけません。明示しないと盗作になってしまいます。これは泥棒行為です。

レポートは切り貼りでも感想文を求めているのでもありません。指定教科書だけでなく、関連する文献もぜひ読んでください。そこから理解したことを書きましょう。

最後に一言。勉強すること、レポートを作成することを、どうぞ楽しんでください。たとえレポートに不合格判定が出ても、何度でも書きなおせばよいのですから…。

レポート・論文の書き方 ― 活字

担当科目：(学部)系長・平安時代文学史Ⅰ・Ⅱ

Ⅰ 原稿の書き方

- 1 題名は三行目、行頭から三字か四字下げて書く。
- 2 題名にサブタイトル(副題)をつける場合には、サブタイトルを三行目に書き、下にタリシエ(一)を入れる。最近は上につけるだけのものもある。
- 3 氏名は三行目、あるいはサブタイトルのある場合は四行目の下の行に書く。

例 神と人とをつなぐ音
― 中世の音と声 ―

笹本正治

中世の音楽
― 声聞／唱導／音楽 ―

安倍泰郎

(『中世文学』第五十四号による)

- 4 本文および段落の書き出しは一字下げて書く。
- 5 句点(・)や読点(、)は一字分をとる。句読点が行頭にくる場合は、行末に入れ、行頭には記さなく。
- 6 文中に引用文を挿入する場合は、短いものはカギ括弧(「」)をついて、後に地の文を続ける。長い引用文は改行して、書き出しは行頭より三字下げて書く。これは自註と題註との区別をはっきりさせるためである。それが不明瞭な場合には添作・刪削とされるので、特に注意が必要である。
- 7 注は引用文の出典を明示するためや、補足説明をする場合につける。引用文の最終文字の右傍に、「(1)」、「(2)」、「……」のようにつけるのが一般的である。以前は(注一)、(注二)……、(註一)、(註二)……、(註一)、(註二)……のような表記も行われた。
- 8 注は本文の最後につける。注については、著者名、書名、出版社名、発行年、頁を必ず明示する必要がある。注は、番号順に配する。

単行本の場合

著者名、「書名」、出版社名、発行年、引用頁(〇〇頁)

単行本、雑誌に収録された論文の場合

著者名、「論文名」(『掲載誌名』、出版社名、出版年、頁)

著者名、「論文名」(『掲載誌名』、巻数、出版年、頁)

※論文や単行本は、最初に発表された時期が重要である。初出の年次が別にある場合は、それもあわせて記すこと(本稿の末尾「参考文献」の第四例を参照)。

著者名のない図書・新聞記事等の場合

「項目名」(『書名』、出版社名、出版年)

「見出し」(『新聞名』朝刊または夕刊、発行年月日)

インターネットのホームページを参照した場合

著作者、URL、閲覧年月日

符号について

- 1 「重なり括弧(『 』)」 書名・雑誌名・新聞名等を表す以外に、引用文・会話文(「」)の中に、さらに引用がある場合。
やまかた() 引用句を目立たせる効果を表す。乱用は禁物。
中黒・中点・黒丸(・) 単語を並べる場合用いる。
例 まつ・すき・ひのき ドイツ・アメリカ・インド
感嘆符(!)と疑問符(?)のあとには句読点はつけない。
- 2 行頭・行末においてはならないもの
① 「一」にあけたもの。
② 拗音、促音(外来語などに使う片仮名表記も同様)。

Ⅱ 国語表記の基準

「常用漢字表」(昭和五六年内閣告示第一号)によって、「かながきにする語」の主なものをあげてみる。次のようになる。

接続詞

例 おつて かつ しながつて ただし つては うちが ところで まだ ゆえに

助動詞

例 ようだ な

助詞

例 ながら など まで くらい ほど おいて

形式名詞

例 こと(並列しなごうじがある) ところ(現在のところ) とき(正しきもの) ため(あていするつらじ) ため(正しきもの教育のため) ほか こと はず ゆえ など。

次のような語句を（ ）の中に示した例の通りに用いるときは、原則として、仮名で書く。

例 (一) みる (文章を書いてみる) へたち (問題点を語ってへたち) あげる (本を貸してあげる)
 おく (考へておく) いる (足氣になつている) わけ (賛成するわけにはいかない) とおり (次の通りである)
 ある (その点に問題がある) いる (ここに關係者がいる) なる (合計するに一万円になる)
 できる (それによつても利用ができる) …ていく (負担が増えていく) …ていただく (報告していただく)
 …てしまう (書いてしまふ) …かもしれない (間違ひがかもしれない) …とよい (連絡してよい)
 …とよくない (調査にだけはよくない) …について (これについて考慮する)

(『必携用字用語辞典 第二九版』三省堂 二〇〇二年(初版一九五七年)五二八、五二九頁)

III 論文のタイトルの実例

『法華經』と平安朝の文化・文学 今成元昭

『疾衣物語』と『法華經』

— (かぐや姫) の (月の姫) をめぐって 鈴木泰恵

『発心集』の古写断簡をめぐって 兼義信行

御伽草子にみる「宮」について 沢井耐三

『今昔物語集』における身の不浄と心の不浄 中根千絵

(『国文学研究』787、『国文学』第四十六号、『国語と国文学』第七十七巻 第七号、『国語学』第三十二号より)

IV まの付け方の実例

『古事記』の世界

聖徳太子

はじめに

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

一 夢

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

「□□□□□□□□□□□□□□□□」□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

二 雲

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

まごめ

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

注

(1) 三品彰英「天ノ日本の伝説—神功皇后伝説考その一」(『日本書紀研究第三冊』城書房

昭和四十三年 五一頁)

(2) 青木圭子『万葉集の美と心』おうふう 昭和六十年 一〇二頁

(3) 西郷信綱『古代人と夢』平凡社 一九九六(初版一九九三)年

(4) 校注・沢村原浅男他『古事記 上代歌謠』小学館 昭和六〇年

(初版昭和四八年) 一〇八頁

(5) 聖徳太子氏の教示による。

* 「頁」の下に、句点(・)は付けなくてもよいが、「(5)」の例のような文後説明の場合には必ずつける。

注の番号をくくる括弧(「(1)」の())はつけなくてもよい。

* 参考文献

清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書 一九六二年

尾川正二『原稿の書き方』講談社現代新書 433 一九六四年

谷崎潤一郎『文藝読本』中公文庫 一九六六年

保坂弘司『レポート・小論文・卒論の書き方』講談社学術文庫 昭和五八(初版昭和五三)年

手元にあるものを記してみました。図書館あるいは書店で閲覧するものをご参照ください。

Series シリーズ コンサート '10



聖徳学園 シリーズコンサートに、 無料*でご招待します。

今年度も教養講座として、『聖徳学園シリーズコンサート』を開催します。
世界各国の著名なオーケストラ、演奏家、バレエ団や日本の伝統古典芸能などを、無料*で鑑賞できます。
※申込みが多数の場合抽選となります。

ご注意

- お申込みは、月1回までです。
- 1演目につき返信用封筒1枚が必要です。
- 申込期間内の必着です。前後でも、受付けできませんのでご注意ください。
- セーター、ジーンズ、スニーカーなどラフな服装でのご入場はお断りしています。

シリーズコンサートスケジュール(2010年1月)

日	時	演 目	申込期間[必着]
1/ 8(金)	16:00	送別オルガンコンサート①	締切済
1/12(火)	16:00	ヨハン・シュトラウス・アンサンブル	//
1/13(水)	18:15	ウィンナー・ワルツ・オーケストラ	//

応募資格

聖徳大学通信教育部学生
(科目等履修生除く)

会 場

聖徳大学川並香順記念講堂
(松戸駅東口徒歩5分)

応募方法

A4用紙に

①希望日・時間 ②希望演目
③学籍番号 ④氏名 ⑤学科
を明記の上、返信用封筒(宛名明記、
切手80円貼付)を同封し、左記期
日までに郵送ください。

○郵送先
聖徳大学通信教育学務課
〒271-8551 松戸市松戸1169
聖徳大学生涯学習社会貢献センター内
シリーズコンサート係